2009年度

狭山シニア・コミュニティ・カレッジ

２０１０年１月９日（土）

武蔵野学院大学大学院・武蔵野学院大学教授

博士（英文学）　佐々木隆

子どものための外国文学

武蔵野学院大学・武蔵野短期大学

建学の精神：他者理解　　建学の精神：自覚ある女性たれ

目　　次

はじめに　3

１　「こども観」とは
　１）「子供」「子ども」「こども」の表記　4
　２）「児童」とは　5
　３）日本の「こども観」と西洋の「こども観」　6

２　「昔話・お伽話・童話・少年文学」から
　　「児童文学」へ
　１）明治以前の「昔話・お伽話」　7
　２）明治初期　童話と児童観、児童文学　8
　３）「児童文学」とは何か　9
　４）エレン・ケイ『児童の世紀』　１０
　５）『赤い鳥』　１１
　６）世界の児童文学史　１３

３　日本に英米文学が紹介された頃
　１）受容のあり方について　１４
　２）英米児童文学の紹介　１８

４　文学作品の変容
　１）活字化から舞台へ　２１
　２）マンガ化、アニメ化、映像化　２１

５　英米文学アラカルト
　１）様々な分野　２４
　２）科学とファンタジー　４１

まとめとして　４６

注　４７
資料　４８

おわりに　５０

は　じ　め　に

本冊子は狭山シニア・カレッジの子育て支援学科の第 30 回「子どものための外国文学」用のテキストである。限られた時間の中で十分に伝えられないことや、いわゆるフィードバック（あとから利用が可能になること）にも利用できるように、活字化したものである。

具体的な内容については、外国文学も様々なものがあるが、ここでは英米文学を中心に扱うこととする。また、昨今の時代の流れからもクール・ジャパンの文化アイテムであるアニメ等についても取り上げることになろう。実際の講義ではすべてを網羅することはできないので、資料となるように冊子を作成した。なお、実際の講義では目次の３～５あたりを中心に触れることになる。また、当日はパワーポイント等を利用しながら進めるが、そのすべてを本冊子に収録することはできないが、その場合には抜粋あるいは時系列年表等の形式で掲載したことお断りしておきたい。

なお、英米文学の内容をさらに知りたい場合には、「資料」編の文献を利用されるか、ホームページ「佐々木隆研究室」(http://www.ssk.econfn.com)の「講義に関すること」→「武蔵野学院大学」→「英米文学史」を参考にしてほしい。大学の授業で配付したものなどを掲載している。

佐々木　隆

1　「子ども観」とは

1）「子供」「子ども」「こども」の表記

「子供」「子ども」「こども」と表記は様々である。最近では「子供」という表記より「子ども」あるいは「こども」の表記をよく見るようになった。『広辞苑』（第６版）では見出し語は「子供」である。最近の例では、幼保一元化の切り札とも言える「こども認定園」という新しい施設が法的に整備されたのは 2006 年（平成 18）10 月のことである。

さて、「子供」と言う表記の「供」は、どうしても大人との関係、比較から出てくる言葉である。もともと戦後の公用文でも「子供」という表記が使われる一方、「国民の祝日に関する法律」（1948 年 7 月 20 日）では５月５日を「こどもの日」と定めている。また、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」（2006 年）では「子ども」、そして、今日の施設名の「こども認定園」を見ても、国自体、あるいは行政レベルでさえも、名称については確固とした認識がないのが実情である。一般的には「大人・子供」、「おとな・こども」といった程度の漢字による表記か、ひらがなによる統一表記とするかといったレベルである。

ここでは、「子育て支援学科」の一講座ということから、表記について言及した。辞書的には当然「子供」はあり、表現として間違ってはいないが、「子ども」「こども」の人格の独立などを特に強調したいような場合には表記へのこだわりが見られるといったところだろうか。

なお、最近の大学では以下のような学部、学科が設置されているので、設置年と大学名を紹介しておきたい。

2002 年　鎌倉女子大学児童学部子ども心理学科
2002 年　鹿児島純心女子大学国際人間学部こども学科
2002 年　金城学院大学人間科学部現代子ども学科
2003 年　東大阪大学子ども学部こども学科
　　＊日本で最初の子ども学部
2004 年　東京成徳大学子ども学部子ども学科
2005 年　白梅学園大学子ども学部子ども学科

2005年　梅光学院大学子ども学部子ども未来学科
2006年　中国学園大学子ども学部子ども学科
2006年　東北福祉大学子ども科学部子ども教育学科
2007年　浦和大学子ども学部子ども学科
2007年　東京未来大学こども心理学部こども心理学科
2008年　帝京科学大学子ども学部子ども学科

こうした傾向は「子ども学」(Child Science)という考え方が新たになされるようになったことが大きな理由の一つである。しかし、まだ確立はされていない。現状では保育・教育の両方をカバーするような内容である。

２)「児童」とは

「子供」「子ども」「こども」と言う表現と同様に使われている用語として「児童」がある。ここで1994年5月22日に日本が批准したConvention on the Rights of the Child（「児童の権利に関する条約」）については注目しておきたい。それは、英語の“child”をどのように訳すかということだ。「子ども」「こども」なのか、「児童」なのかということだ。
政府訳では「児童」となっている。そのArticle 1（第１条）を見ておきたい。

For the purposes of the present Convention, a child means every human being below the age of eighteen years unless under the law applicable to the child, majority is attained earlier.
児童とは、十八歳未満のすべての者を言う。ただし、当該児童で、その者に適用される法律により早く成年に達したものを除く。

では、日本では法令的には「児童」をどのように定義しているのだろうか。児童福祉法（1947年12月12日・法律１６４号）には児童について次のように定義している。

第４条　この法律で、児童とは、満 18 歳に満たない者をいい、児童を左のように分ける。

1．乳児
　満１歳に満たない者
2．幼児
　満１歳から、小学校就学の始期に達するまでのもの
3．少年
　小学校就学の始期から、満 18 歳に達するまでの者

法律上、「子ども」・「こども」なのか、あるいは「児童」なのかといった問いには、社会通念上「児童」とは小学生を指す場合が多い。さらに法律上の「児童」の定義をみても一定ではない。学校教育法では、満６歳～12 歳を「学齢児童」と呼び、道路交通法では６歳以上 13 歳未満の者、労働基準法では 15 歳未満の者を「児童」と定めています。また、児童福祉法では前述の通り 18 歳に満たない者の総称が「児童」であり、乳児（１歳未満）、幼児（１歳から小学校就学まで）、少年（小学校就学から 18 歳に達するまで）と区分されている。母子福祉法では、20 歳未満を「児童」としている。

一般的に「子」という表記は、民法にある 20 歳未満の者を「未成年者」と定め、「子」とは年齢に関わりなく親子関係における「子ども」のことを意味することになる。国が定める法律であっても、「児童」の表記に統一性はなく、縦割り行政の弊害と言えるかもしれない。

いづれにしても、最大 20 歳未満はすべて児童という考え方があることがわかる。これだけ曖昧であれば、後でふれることになる児童文学の定義も自動的に曖昧となる。

３）日本の「こども観」と西洋の「こども観」

「こども」について注目されるようになったのはいつ頃からだろうか。日本では「子（こ）」については和歌などにも詠われていることは周知の通りである。『万葉集』(759?)には「銀も金も玉も何せむに優れる宝子にしかめやも」（山上憶良）といった有名な和歌がある。また、日本で最も古い社

会福祉・児童福祉施設は聖徳太子(574-622)が設立した「悲田院」だとも言われている。悲田院は天王寺・四箇所のひとつで、593 年建立と言われている。仏教の慈悲の思想に基づき貧しい人や孤児を救うためのもので、中国の隋に倣ったと言われている。世界的に見てもこの時代こうしたはっきりと福祉目的の施設の設立は珍しいようだ。欧米、特にイギリスに目を向けてみると、中世はローマ・カトリック教会が救済の名の下で組織的にではないが、教会が社会福祉施設の役割を果たしていたようだ。(1)

その後は、1347 年に労働者条例、1530 年に労働者条例、1597 年には貧民救済法が発令されるが、以後、本格的なものは産業革命以後、貧富の差の拡大、格差社会が現実化してからのものである。

社会の流れもあるが、子どもの捉え方としては、おとなの未熟な姿、家督相続の道具、一家の労働力として語られることが多かった。一般に「子ども観」を最初に問うたのはジャン＝ジャック・ルソー（Jean-Jacques Rousseau, 1712-1778)の『社会契約論』(1762)、『エミール』(1762)である。ルソーは子どもの教育は子どもらしくすることを主張し、発達段階に応じた自然に従う教育、つまり、子どもを植物に喩えて考えることが最もよい教育だとしたのである。子ども観により教育の在り方が変われば、自ずと児童文学等の考え方もそこから変わって来ることになる。

２　「昔話・お伽話・童話・少年文学」から「児童文学」へ

１）明治以前の「昔話・お伽話」

明治時代以前の昔話、お伽話はもともと児童文学という考え方が出現する以前から存在するものである。むしろ、明治時代になってから、児童文学という考え方が誕生してから付けられた名称といったほうが正しいかもしれない。言い伝え、伝説等が総じて「昔話」となり、「お伽話」はその内容として現実離れした話、外国風に言えばファンタジーということになろうか。明治以前には草双紙、赤本、黄表紙などで「桃太郎」が取り上げられたり、あるいは『お伽草紙』では「カ

チカチ山」が取り上げられていた。それ以外にも、『日本書紀』や『古事記』などからは「因幡の白兎」、『今昔物語集』からは「藁しべ長者」、「かぐや姫」で知られる『竹取物語』、「八犬士」で知られる『南総里見八犬伝』等もあるが、それぞれの時代の中で生まれた文学であって、後年になって捉え方が異なって来たのである。

２）明治初期　童話・少年文学と児童観

童話と児童観を述べるには教育に注目しなければならない。特に明治の教育、とりわけ子供の教育について触れておきたい。明治６年（1873）３月の田中義廉編『小学読本』（文部省）には次の様にある。

> 人の務めは、種々にて士農工商とも皆別々の学文あり、されども、幼年のとき習ふべき学文は、みな同じことなり、これを一般の学文といふ、○この学文を学ばざれば、何れの業をも学ぶこと能はず、故に、人は六七歳に、至れば、皆小学校に入りて、一般の学文を習ふべし、○小学校は士農工商とも皆習ふべき学文を教ふる所なり（２）

身分に関係なく、「幼年のとき習ふべき学文は、みな同じことなり、これを一般の学文といふ」は注目に値する。明治も中頃には子供のための読み物が次々と刊行されるようになった。

> 明治二十年代は、読み物としての少年雑誌が日本で初めて続々と刊行されだした時期であった。主な誌名を掲げれば、『教育小共のはな誌』（明治 20・8)、『少年園』（明 21・11)、『日本之少年』（明 22・2)、『小国民』（明 22・7)、『幼年雑誌』（明 24・1)、『少年世界』（明 28・1）等である。対象年齢は、小学校低学年生から青年期までにわたり、様々なであるが、どの雑誌も、当初は小説やお伽噺といった娯楽的作品は極めて稀で、教育的読売が主流を占めていた。（３）

日本の童話に関する考え方は、明治24年(1891)1月に「少年文学叢書」の第1巻として巖谷小波『こがね丸』が出版され、童話を含めた児童文学が定着したようだ。

> 明治時代において児童文学がどのように誕生したかといえば、その契機は、思想史的には、その時代に入ってようやく子どもが、条件つきではあるけれど人格を認められるようになったからであり、社会史的には、近代日本の国家が近代的な社会をつくるためのファクターのひとつとしてそれを必要としたからであった。(11)

日本における児童観の歴史を辿っていくと、特に明治以降の教育施策、児童福祉行政とも大きく関連して来る。歴史的に遡れば前述の通り聖徳太子の悲田院をその萌芽と見ることもできるであろうが、明治に入ると文明開化と殖産興業という基本的な政策のもとに、富国強兵の考えが登場してくることになった。児童は富国強兵のための人材として考えられるようになった。今で言う人権とは程遠いが、それでも児童保護は前進することになった。児童保護に関する行政の流れは以下の通りである。

明治 元年	(1868)	堕胎禁止令
明治 4年	(1871)	棄児養育米給与方
明治 7年	(1874)	恤救規則
明治23年	(1890)	軍人恩給法
明治44年	(1911)	工場法
大正 6年	(1917)	国立感化院令
大正 6年	(1917)	児童研究所設置(東京)
大正 8年	(1919)	児童相談所設置(大阪)
大正 9年	(1920)	児童保護委員制度
大正11年	(1922)	小年法、矯正院法

3)「児童文学」とは何か

前述の通り、「児童」の定義が曖昧であれば、必然的に「児童文学」の定義も曖昧なものとなる。そこで「児童文学」の定義について示唆に富む文芸評論家・瀬沼茂樹(1904-1988)

の指摘を紹介しておきたい。

普通に文学のジャンルとして児童文学を考える場合、児童のために成人が制作した文学、あるいは児童のための文学をいうことになっている。おそらくこれには二義があるだろう。簡単にいえば、児童用の文学であり、児童の年齢に応じて教育的意義をも含めて、特別の配慮の加えられた文学が一方にある。もう一つは児童のために、純然たる芸術意欲から制作される文学である。現実には、前者にしろ芸術意識を根源としなければ、低次元の教化にとどまるであろうし、後者にしろまったく教化的適応性を無視しては児童文学として成り立ちしがたいところもある。(5)

瀬沼はさらに児童文学について述べている。

文学の問題として考えると、児童文学の分化が若いということであろう。どこの国の文学にも、神話、伝説、民話、民謡などがあり、それ自体に児童文学の要素を含みながら、児童文学として成立したわけではない。わが国のお伽噺にせよ、英語の Fairy tales, Fable にせよ、独語の Märchen にせよ、すべて児童のための文学として用意されたものではない。(6)

つまり、もともと存在していた話を児童文学と呼ぶ場合と児童のために用意するための文学があるとういことだ。そして、児童のために用意するいわゆる「児童文学」には、教育的な意味合いが含まれると考えらよう。

４）エレン・ケイ『児童の世紀』

エレン・ケイ(Ellen Key　1849～1926)が明治 33 年(1900)に『児童の世紀』を発表し、20 世紀を「児童の世紀」と呼んだことは、当時の日本にもその波動は届いている。

近代的児童文学研究は、児童研究の中に、教育・心理学

研究の一環として発展過程をたどる。この時期はエレン・ケイ(Ellen Key　1849～1926)の『児童の世紀』(一九〇〇)が国際的に大きな反響をよび、邦訳の大村仁太郎『二十世紀は児童の世紀』(一九〇六)が教育界に衝撃をあたえる時期とかさなってくる。児童学会の児童研究も「児童の世紀」に触発されてもりあがっていく。(7)

エレン・ケイは子どもの権利保障について先駆的な役割を果たした。まさに、エレン・ケイの登場により、日本だけではなく、世界中に児童に関する考え方が一新されたのである。20 世紀を子ども中心主義教育の新時代とすることを訴えたのである。(8)

５)『赤い鳥』

日本における童話・児童文学研究の史的展望を考察して見ると次の通りとなる。

わが国の児童文学研究に三つの屈折点が指摘できるように思われる。第一は、明治期の教育・心理と密接した形における伝承的説話研究から、大正期の童心芸術運動と連動する童話・童謡研究への発展期である。第二は、大正期デモクラシーもプロレタリア児童文学も否定してしまう戦時期少国民文学の統制期への転換である。第三は、敗戦による民主主義児童文学の新生期であった。(9)

こうした時代背景の中、大正 7 年(1918)7 月の鈴木三重吉(1882-1936)の『赤い鳥』の発刊により、「子供のための芸術」を創作する必要性が宣言されるに到ったのである。この「子供のための芸術」は、芸術至上主義という当時の世相を反映して、童話が芸術としての地位を獲得するまでになるのである。

昔物語、伝説噺、お伽噺などを文学的に取り扱う時にはお伽噺とし、教育的に描いた場合には童話というような傾向が明治時代にはあったが、大正 7 年(1918) 7 月の鈴木三重吉によって『赤い鳥』が創刊されると、童話に対する見方は新た

な局面を迎えるようになった。

> 大正七年七月、鈴木三重吉は雑誌『赤い鳥』を主宰発行した。創刊のプリントを見ると、「西洋人とちがって、われわれ日本人は哀れにも未だ嘗て、ただの一人も子供のための芸術家を持ったことがありません」とある。だからこそ、『赤い鳥』によって『芸術としての真価のある純麗な童話と童謡を創作する」最初の運動を、当今文壇一流の作家詩人の協力を得て推し進めたい、と三重吉は主張したのであった。鈴木三重吉は東京帝国大学英文科の出身で、在学中夏目漱石の知遇を得、明治三十九年に処女作「千鳥」を発表し、文壇に登竜した既成の作家であった。その三重吉が、子供の文学に献身することを宣言したのである。(10)

『赤い鳥』の登場により、童話の中に「芸術性」が持ち込まれたのである。

蘆谷重常は大正２年(1913)４月の『教育的応用を主としている童話の研究』(勧業書院)、大正２年(1913)４月の『童話及伝説に現れたる空想の研究』(以文館) では童話は昔話を指していたが、蘆谷重常は「伝説学的見地」「芸術的立場」「児童心理学の上から、その応用の点から言へば教育的見地」の三つにまとめていたが、「芸術的立場」については、後年になってようやく発表されるようになった。

大正 11 年(1922)5 月には蘆谷重常(1886-1946)を中心に日本童話協会が設立された。会則には「童話の研究及び一般児童芸術の改善普及を計る」とあるのは、注目しておいてよいだろう。

児童文学の本質の究明による学問的な光が当て始められたのは戦後になってからのことである。昭和 22 年(1947)12 月に児童福祉法、昭和 26 年(1951)５月の児童憲章が制定され、子供の人格や権利が保障されるようになったことが大きな要因であろう。大正時代には早くも大正 13 年 (1924) 11 月の有富郁夫『児童文学十講』(東京出版社)、大正 14 年(1925) ９月の富山師範附属小学校編『児童文学の研究』(明治図書) のように「児童文学」という呼称も使用されているが、明治

時代では「お伽噺」、大正時代からはほとんどが「童話」という表現であったようだ。

６）世界の児童文学史

世界児童文学史の源泉をどこにおくかは難しい。日本の場合と同様に、児童文学という概念との係りがあるからだ。いわゆる昔話等と言う考え方からすれば『イソップ物語』(*Aesop’s Fables*)はその原点ということなるかもしれない。『イソップ物語』は古代ギリシャのアイソポス(Aesop, 620-560 BC)によって創作されたとされている。一般的には動物などが人間生活の諸相を描いたものとなった寓話として知られている。しかし、フランスのペロー(Charles Perault, 1628-1703)、ドイツのグリム兄弟(Jacob, 1785-1862, Whilhelm Grimm, 1786-1859)、デンマークのアンデルセン(Hans Christian Andersen, 1805-1875)、イギリスのルイス・キャロル(Lewis Caroll, 1832-1898)あたりがその定着に寄与したの考えには異論はないだろう。児童文学ということになれば、イギリスなしには考えられないのだ。

> イギリスは、児童文学という文学の新しい一領域を、作りあげ、育ててきた国であり、いまなおさかんにそれを発展させてやまない。(１１)

イギリスには、ジョン・ラスキン(John Ruskin, 1819-1900)、オスカー・ワイルド(Oscar Fingal O’Flaherty Wills Wilde, 1854-1900)、ビクリアス・ポター(Beatrix Potter, 1866-1943)、ミルン(Alan Alexander Milne, 1882-1956)など枚挙に暇がない。また、イギリスと同じ英語文化圏であるアメリカでは、ルイザ・オルコット(Louisa May Alcott, 1832-1888)、マーク・トウェイン(Mark Twain, 1835-1910)によりリアルな小説が生み出されていくことになる。(１２)特にアメリカの場合には、所謂ファンタジーと言った内容のものよりも、現実社会で子どもがどのような立場に立たされているのかといったようなものが主流のようだ。世界を見ても、はっきりと子どものために書かれた文学もあれば、そうでないものもある。

3　日本に英米文学が紹介された頃

1）受容のあり方について

英米文学にこだわらず、西欧の文学の日本への紹介を考えると、文禄2年(1593)には『イソップ物語』が『伊蘇普物語』として紹介されていたことは触れておかなければならないだろう。明治6年(1873)には渡部温（わたなべ・おん 1837-1898)が『通俗伊蘇普物語』を刊行している。

日本における英米文学の初紹介は嘉永元年(1848)の稿本『漂荒紀事』であったようだ。これは蘭学者黒田麹盧（くろだ・1827-1892）が蘭語本からデフォー(Daniel Defore, 1660-1731)の『ロビンソン・クルーソー』(*Robinson Crusoe*, 1719)を抄訳したものだ。訳者は「英吉利国、魯敏孫嶇瑠須著」とあり、この有名な孤島小説を実録として扱い、まさに実用書として考えていたようだ。日本も英国も島国であるということからこうしたことが起こったのかもしれない。その後、安政4年(1857)に横山由清（よこやま・よしきよ）が『魯敏遜漂行紀略』を要約であるが刊行した。明治維新後はキリスト教の影響を受けた雑誌や少年文学（児童文学）の翻訳として様々な作品が翻訳されるようになった。

> 日本における英米文学の初の紹介は、嘉永元年（1848年）の稿本『漂荒記事』であったという。これは、蘭学者黒田麹盧が蘭語本からデフォー(Daniel Defoe, 1660-1731)の『ロビンソンー・クルーソー』(*Robinson Crusoe*, 1719)を抄訳したもの[13]

であった。しかし、明治期を通じて最大の収穫は『女学雑誌』に連載された若松賤子（わかまつ・しづこ，1864-1896）訳『小公子』であると言ってよいだろう。明治23年（1890）8月から10月にまず連載され、その後中断されたものの、明治25年（1892）7月には完成した。これはバーネット(Mrs.Frances Hodgeson Burnett, 1849-1924)の *Little Lord Fauntleroy* (1886)の翻訳である。[14] 英文学の中でもオスカー・ワイルドの童話は芸術童話として捉えられているので

ある。

大正 13 年(1924)11 月の蘆谷重常『世界童話研究』(早稲田大学出版部）はワイルドの童話を各国の童話の項目に入れずに「芸術童話」として取り上げたことは興味深い。本書は「緒言」、「第一篇　古典童話」、「第二篇　口碑童話」、「第三篇　芸術童話」から成っておいる。

「緒言」には蘆谷重常の童話の分類の考え方が示されている。

> 童話は、もと傳説より発達したるものである。傳説とは、古代未開の人民が、口から耳へ語り傳へたる説話のすべてをいふ。それらの説話の中、特に民族の歴史及び宗教と関係深きもの、藝術的或は思想的内容の優秀なるものは、或は詩歌に歌はれ、或は記録せられて後世に残つて居る。かくの如き古代の詩歌及び記録に遺れる、童話的要素に富める説話を稱して「口碑童話」といふ。
>
> 文化の発達に伴ひ、民衆の藝術的の要求が口碑童話を以て満足せざるに至れば、口碑童話を材料として之に藝術的彫琢を加へ、或は作家自ら新しき傳説を創造して、更に別種の童話を造り出すに至る。これを「藝術童話」といふ。(１５)

「イングランドの童話」と「ケルト族の童話」は「第二篇　口碑童話」で取り上げられている。「第三篇　芸術童話」は「第一章　ペロール及びドールノアの童話」、「第二章　ハウフの童話」、「第三章　アンダアゼンの童話」、「第四章　クリロフの寓話」、「第五章　トルストイの童話」、「第六章　ワイルドの童話」となっている。ワイルドの童話については次のように説明している。

> ワイルドの童話は一八八八年に公にせられたる「幸福な王子」(Happy Prince and other tales)と一八九一年に公にせられたる「柘榴の家」(The House of Pomegranates)に収められてある。彼の童話は、アンダアゼンの想をフロオベルの筆で書いたと言はるゝほどのもので、其の空想の奔走なる、その描寫の精緻なる、

その文章の流麗なる、他に匹儔を見ざるところ、恐らく近代英文学の如何なる作品を以て之と比較する遜色なかるべしと思われる一大藝術品である。(16)

また、童話において「子供と大人」について触れ、ワイルドの童話については次のように説明している。

童話において、大人の生活をあまりくはしく語ることは、大人の愚痴や希望を、童話といふ形に托するといふより外に解釋のしやうがない。この點においても、近代の童話には、假面のみの童話が少なからずあるが、ワイルドのは大いに之と異なつて居る。彼の童話は、大人の童話でるともいへるが、また子供の童話であるともいへるのである。(17)

蘆谷重常は代表的な童話作家7人について論じたが、その位置付けは次の通りである。

予は近代童話作家の代表なるものとして、ペロール・ドールノア夫人、ハウフ・アンダアゼン、クリロフ・トルストイ、ワイルドの七家をあげた。ペロール及びドールノアは、ヨーロッパにおける童話作家の祖として、ハウフはハウフ型芸術童話の創始者として、アンダアゼンは最大の芸術童話家として、クリロフは近代寓話家の泰斗として、トルストイは思想本位童話家として、ワイルドは極端なる芸術的童話の作家として、いづれも正に芸術作家を代表するに足るものである。(18)

ワイルドの童話は *The Happy Prince and Other Tales* (1888)と *The House of Pomegranates* (1891)に収録されたものと考えると、その作品は以下の通りである。

The Happy Prince and Other Tales	『幸福な王子　その他』
The Happy Prince	「幸福な王子」
The Nightingale and the Rose	「ナイチンゲールとバラ」
The Selfish Giant	「わがままな巨人」

The Devoted Friend　「忠実な友」
The Remarkable Rocket　「すてきな打ち上げ花火」

The House of Pomegranates　『柘榴の家』
The Young King　「若い王」
The Birthday of the Infanta　「王女の誕生日」
The Fisherman and his Soul　「漁夫とその魂」
The Star-Child　「星の子」

日本における西洋の童話の受容を見ると、イソップ物語、グリム童話、アンデルセン童話を抜きにしては語ることはできないだろう。特にアンデルセン童話の影響は計り知れないものがある。

> アンデルセン童話の圧倒的な影響力に比べると、社会風刺性が強く無垢なるものの美への憧憬をテーマとした大人向けとも言える9編のワイルド童話の魅力を真に理解した者は少ない。ましてや子供の享受など微々たるものであったと言えよう。(19)

童話を考えるには、教育との関係や当時の子ども観などとも大いに連動して来る。「こどものための読み物」としての童話なのか、童話も芸術性を求めるのかといったことが問われていることになろう。ここで大きく取り上げた蘆谷重常はワイルドを藝術的童話作家として位置付けたのである。

蘆谷重常はワイルドの唯美主義を「人生と美」の関係を捉え、童話研究の観点からワイルドを本格的に研究した先駆者と言えるかも知れない。有島武郎のように強く影響を受けた文学者もいるが、概して「ワイルドの童話が高尚かつ難解なために稀薄であった」(20)というのが、一般的な捉え方であろう。

また、戦後ではあるが“The Happy Prince”を中心に日本への受容研究を扱った平成16年(2004)11月の榊原貴教「ワイルドに見る翻訳社会史――『幸福の王子』と戦後日本の児童文学」(『翻訳と歴史』第24号、ナダ出版センター)といった素晴らしい研究業績も発表されている。また、特に注目

されているものとして有島武郎の「燕と王子」との比較研究もある。大正 15 年（1925）５月～７月に有島武郎氏遺筆「燕と王子」(『婦人の国』第１巻第１号～第３号，新潮社）として発表されたものであるが。

ワイルド童話の受容研究は同時に比較文学研究としても進んでいる。単なる童話研究だけはなく、こうした有島のような受容もまたひとつの受容のあり方であり、童話研究を通して、こども観、児童観とは何かといった問題にまで発展するのである。

２）英米児童文学の紹介

ここでは簡単に英米文学のうち、児童文学を時系列に紹介しておきたい。もちろん、何を以て児童文学と呼ぶかは前述の通り様々な問題もあるが、ここでは一般的な捉え方として、絵本、児童文学全集、世界少年少女文学全集などで紹介されているものを中心に、さらにこれに加えて、文化アイテムとしてキャラクター化しているものものあるので、キャラクターの登場する作品についても取り上げておきたい。

13 世紀　　ロビン・フッド
1485 年　　マロリー『アーサー王の死』（アーサー王伝説）
1719 年　　デフォー『ロビンソン・クルーソー』
1726 年　　スィフト『ガリバー旅行記』
1734 年　　「ジャックと豆の木」（活字化される）
1780 年　　クーパー『マザー・グースのメロディ』
1806 年　　ラム姉弟『シェイクスピア物語』
1812 年　　「三匹の子豚」（活字化される）
1818 年　　シェリー『フランケンシュタイン』
1837 年　　ディケンズ『オリヴァー・トゥィスト』(～1839)
1843 年　　ディケンズ『クリスマス・キャロル』
1852 年　　ホーソン『ワンダー・ブック』
1852 年　　ストウ夫人『アンクル・トムの小屋』
1865 年　　キャロル『不思議の国のアリス』
1868 年　　オルコット『若草物語』
1871 年　　キャロル『鏡の国のアリス』

1871年　ウィード『フランダースの犬』
1876年　トウェイン『トム・ソーヤーの冒険』
1883年　スチーブンソン『宝島』
1883年　トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』
1886年　スチーブンソン『ジキル博士とハイド氏』
1886年　バーネット『小公子』
1886年　ドイル『緋色の研究』(シャーロック・ホームズ・シリーズの開始)
1888年　ワイルド『幸福な王子』
1888年　バーネット『小公女』
1891年　ワイルド『柘榴の家』
1894年　キプリング『ジャングル・ブック』
1897年　ウェルズ『タイム・マシン』
1898年　ストーカー『ドラキュラ』
1900年　バウム『オズの魔法使い』
1901年　ポッター『ピーター・ラビット』シリーズ開始
1904年　バリー『ピーター・パン』
1904年　ハーン『怪談』
1905年　バーネット『秘密の花園』
1911年　バリー『ピーター・パンとウェンディ』
1912年　ウェブスター『あしながおじさん』
1919年　ロフティング『ドリトル先生アフリカゆき』
1926年　ミルン『くまのプーさん』
1932年　ワイルダー『大きな森の小さな家』
1934年　トラバース『風にのってきたメアリー・ポピンズ』
1935年　トラバース『帰ってきたメアリー・ポピンズ』
1935年　ワイルダー『大草原の小さな家』
1937年　トールキン『ホビットの冒険』
1940年　ナイト『名犬ラッシー』
1950年　ルイス『ナルニア国物語』(シリーズ開始)
1950年　アシモフ『われはロボット』
1951年　サリンジャー『ライ麦畑でつかまえて』
1954年　トールキン『指輪物語』(～1955)
1958年　ボンド『パディントン・ベア』
1961年　ダール『おばけ桃の冒険』
1966年　ダール『チョコレート工場の秘密』

1972年　ダール『ガラスの大エレベーター』
1983年　ダール『魔女がいっぱい』
1988年　ダール『マチルダ』
1997年　J.K.ローリング『ハリー・ポッターと賢者の石』
1998年　J.K.ローリング『ハリー・ポッターと秘密の部屋』
1999年　J.K.ローリング『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』
2000年　J.K.ローリング『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』
2003年　J.K.ローリング『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』
2005年　J.K.ローリング『ハリー・ポッターと謎のプリンス』
2007年　J.K.ローリング『ハリー・ポッターと死の秘宝』

４　文学作品の変容

１）活字化から舞台へ

文学作品は原作から台本化(脚本化）され、舞台で上演されることがある。ドラマ化され、ミュージカル化される。児童文学ということに目を向けてみれば、特に有名なのはアメリカのライマン・フランク・バウム原作『オズの魔法使い』やイギリスのジェームズ・バリー原作『ピーター・パン』などがある。また、変わったところでは、原作が新聞連載漫画のアメリカのロナルド・グレイ『アニー』は昭和 61 年(1986)に日本でも初演され現在でも上演され続けている。英米文学にこだわらなければ、『シンデレラ』、『白雪姫』、『美女と野獣』など枚挙に暇がない。

２）マンガ化、アニメ化、映像化

児童文学との出会いは、読み聞かせや絵本などから始まると考えてもよいだろう。特に文字にポイントを置く以上に絵、イラストにポイントが置かれているマンガ化、アニメ化され、時には、実写化され、映像化されている。映像化には TV 放映によるものもあれば、映画になるものもある。もちろん、その後はビデオ化、DVD 化されることとなる。例えば、フィンランドのトーベヤンソン原作『ムーミン』は昭和 44 年(1969)10 月～1970 年 12 月に TV 放送された。スイスのヨハンナ・スピリの原作『アルプスの少女ハイジ』は昭和 49 年(1974)１月～1974 年 12 月に TV 放送された。また、イギリスのウィーダ原作『フランダースの犬』は昭和 50 年(1975)1 月～1975 年 12 月に TV 放送された。

昔話や童話のアニメ化ではＴＢＳ系列「まんが日本昔ばなし」を忘れることができない。昭和 50 年(1975)1 月にスタートした初回シリーズから、平成 6 年(1994)9 月の放送終了まで全 39 シリーズ、952 回にわたって放送された。また、『世界名作劇場』といったようなアニメ化された児童文学も現代のような映像時代では大きな意味を持つことになるのではないだろうか。一連のシリーズを簡単に紹介しておきたい。

カルピスまんが劇場

1969年 - 1970年 「ムーミン」
1971年 「アンデルセン物語」
1972年 「ムーミン」(新)
1973年 「山ねずみロッキーチャック」
1974年 「アルプスの少女ハイジ」
1975年 「フランダースの犬」
※第1話-第26話までは「カルピスまんが劇場」として放送されていた。DVD等現在では、第27話以降の「カルピスこども劇場」。

カルピスこども劇場 [編集]

1975年 「フランダースの犬」
※初回放送時は第27話から「カルピスこども劇場」に変更されたが、現在では使用している映像の都合で全話「カルピスこども劇場」に統一。
1976年 「母をたずねて三千里」
1977年 「あらいぐまラスカル」

カルピスファミリー劇場 [編集]

1978年 「ペリーヌ物語」

世界名作劇場 [編集]

1979年 「赤毛のアン」
1980年 「トム・ソーヤーの冒険」
1981年 「家族ロビンソン漂流記 ふしぎな島のフローネ」
1982年 「南の虹のルーシー」
1983年 「アルプス物語 わたしのアンネット」
1984年 「牧場の少女カトリ」

ハウス食品世界名作劇場 [編集]

1985年 「小公女セーラ」
1986年 「愛少女ポリアンナ物語」
1987年 「愛の若草物語」
1988年 「小公子セディ」
1989年 「ピーターパンの冒険」

1990年　「私のあしながおじさん」
1991年　「トラップ一家物語」
1992年　「大草原の小さな天使 ブッシュベイビー」
1993年　「若草物語 ナンとジョー先生」(1987年に放送された、『愛の若草物語』の続編)
1994年　「七つの海のティコ」(1994年3月20日放送の9話まで)

世界名作劇場［編集］
1994年　「七つの海のティコ」(1994年4月17日放送の10話から)
1995年　「ロミオの青い空」(1年1作品最後の作品)
1996年　「名犬ラッシー」
1996年 - 1997年　「家なき子レミ」

もちろん上記以外の作品もアニメ化され、特にTV放送で放映された。児童文学を含め文学との出逢い方も親から読み聞かせで知るもの、ラジオ、紙芝居といった時代から、TV、映画、DVDなどのメディアの多様化による影響も少なくない。重要なことは、こうした作品をこどもとおとながいっしょにみることよって同じ時間を共有し、同じ感動を共有することにある。その意味で、児童文学という名称であろうと、あくまでも文学であり、「こころの豊かさ」を高めるところに児童文学の極みがあると思われる。

5　英米文学アラカルト

１）様々な分野

英米文学アラカルトとして、まず英文学を文化アイテムのひとつとして考え、文学・演劇・映画について取り上げてみたい。これらを単独に取り上げることもできるが、作品を文学として読み、演劇として劇場で観たり、また、映画化されている作品も少なくないので、関連のあるものとして捉えておきたい。しかし、アーサー王伝説、ウィリアム・シェイクスピア、Ｈ．Ｇ．ウェルズ、オスカー・ワイルド、ラフカディオ・ハーンについては、まず個別に少し触れおきたい。

１　アーサー王伝説

小池滋『英国らしさを知る事典』(東京堂出版、2003 年 7 月)、pp.5-8.

ブリトン人はしばしばアングロ・サクソン人に対して抵抗を試みたが、挫折に終わることが多かった。こうした状況から生まれたのが、支配階級に勇敢に反抗して、ケルト民族の国を再興させる英雄への期待である。

アーサー王はこのような願望から作り上げた伝説上の人物であろうと考えられる。実際にこの名の王がいたかどうか、信頼できる文献がないかわからない。･･･(中略)･･･魔法使いマーリンの助けによってこの世に生まれ出たアーサーは、名剣エクスカリバーを得て、外敵を次つぎに倒してブリテン王となり、ギネヴィアを王妃とするが、ローマに巡礼の旅に出ている間に、王位と王妃を甥に奪われる。この報いを知り急いで帰国、甥を殺すが、自分も瀕死の重傷を負い、アヴァロンの島へ行き、死ぬ。

２　ウィリアム・シェイクスピア　William Shakespeare (1564-1616)

橋口稔「イギリス文学小史」(荒竹出版編集部編『年表イギリス文学史』荒竹出版、1989 年 2 月)、pp.xii-xiii.

シェイクスピアはすぐれた詩人であったが、その作品が多くの人々をとらえたのは、舞台をとおしてであった。この時代の芝居は、初めは宿屋の中庭や、大学や法学院で上

演されていたが、1570年代の後半から、ロンドンに劇場がつくられて、多い時には10ほどもあった。この間、約50年間という比較的短い期間であったが、稀に見る演劇の興隆期が生みだされた。

多くの劇作家によって数多くの戯曲が書かれ、上演されたが、頂点に立ったのがシェイクスピアであった。

・おもなシェイクスピア映画

オリヴィエ監督『ヘンリー五世』(1944)
ウェルズ監督『マクベス』(1948)
オリヴィエ監督『ハムレット』(1948)
シドニー監督『キス・ミー・ケイト』(1953)
オリヴィエ監督『リチャード三世』(1955)
黒澤明監督『蜘蛛巣城』(1957)(『マクベス』の翻案)
黒澤明監督『悪い奴ほどほく眠る』(1960))(『ハムレット』の翻案)
ワイズ、ロビンス監督『ウェスト・サイド物語』(1961)(『ロミオとジュリエット』の翻案)
コージンチェフ監督『ハムレット』(1964)
ゼッフィレッリ監督『じゃじゃ馬ならし』(1966)
ゼッフィレッリ監督『ロミオとジュリエット』(1968)
バージ監督『ジュリアス・シーザー』(1969)
コージンチェフ監督『リア王』(1970)
ブルック監督『リア王』(1970)
ポランスキー監督『マクベス』(1971)
マザースキー監督『テンペスト』(1982)
コロナード監督『真夏の夜の夢』(1983/84)
黒澤明監督『乱』(1985)(『リア王』の翻案)
ゼッフィレッリ監督『オテロ』(1986)
ブラナー監督『ヘンリー五世』(1989)
ゼッフィレッリ監督『ハムレット』(1990)
グリーナウェイ監督『プロスペローの本』(1991)(『テンペスト』の翻案)
ブラナー監督『から騒ぎ』(1993)
ロンクレイン監督『リチャード三世』(1995)
ブラナー監督『世にも憂鬱なハムレット』(1995)
アル・パチーノ監督『アル・パチーノのリチャードを

探して』(1996)
ナン監督『十二夜』(1996)
ブラナー監督『ハムレット』(1996)
ラーマン監督『ロミオ&ジュリエット』(1996)
ノーブル監督『夏の夜の夢』(1996)
マッデン監督『恋におちたシェイクスピア』(1998)
ホフマン監督『真夏の夜の夢』(1998)
テイモア監督『タイタス』(1999)
ブラナー監督『恋の骨折り損』(1999)
アルメイダ監督『ハムレット』(2000)
ラドフォード監督『ヴェニスの商人』(2004)

・おもなシェイクスピア・ミュージカル
『シラキュースから来た男たち』(1938)
原作:『間違いの喜劇』
脚本:ジョージ・アボット
音楽:リチャード・ロジャース
『キス・ミー・ケイト』(1948)
原作:『じゃじゃ馬ならし』
脚本:ベラ・スペワック、サミュエル・スペワック
音楽:コール・ポーター(作詞)
『ウェスト・サイド物語』(1957)
原作:『ロミオとジュリエット』
脚本:アーサー・ローレンツ
音楽:レオナード・バーンスタイン
『自分のこと』(1968)
原作:『十二夜』
脚本:ドナルド・ドライヴァー
音楽:ハル・ヘスター、ダニー・アポリナー

・おもなシェイクスピア・オペラ
『妖精の女王』(1692)
原作:『夏の夜の夢』
作曲:ヘンリー・パーセル
『オテロ』(1816)
原作:『オセロ』

作曲：ジョアッキーノ・ロッシーニ
『夏の夜の夢』(1850)
原作：『夏の夜の夢』
作曲：アンブロズ・トマ
『マクベス』(1846-47)
原作：『マクベス』
作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ
『オテロ』(1880-1886)
原作：『オセロ』
作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ
『ファルスタッフ』(1889-92)
原作：『ウィンザーの陽気な女房たち』、『ヘンリー四世』
作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ
『ロミオとジュリエット』(1865-67,バレエ音楽は1888に加筆)
原作：『ロミオとジュリエット』
作曲：シャルル・グノー
『夏の夜の夢』(1960)
原作：『夏の夜の夢』
作曲：ベンジャミン・ブリテン

3　H．G．ウェルズ　Herbert George Wells (1866-1946)

上田和夫編『イギリス文学辞典』(大修館書店、2004年1月)、p.378.

小説家・SF作家。Kent州Bromleyで小店主の父と、小間使い上がりの母の三男として生まれる。14歳のとき、母はSussexのある屋敷Up Parkに家政婦として入り、彼は服地商や薬屋に奉公に出る(1880-83)。グラマー・スクールで才能を認められ、奨学金を得て南ロンドンのNormal School of Scienceに進み、T.H.Huxleyの下で生物学を学ぶ機会を持つ。1887年、卒業後学校教師となるが、健康を害して辞める。*The Time Machine* (1895)で一躍有名になり、科学の知識に基づく想像力に富む数々の短編と、*The Island of Dr.Moreau* (1896)、*The Invisible Man* (1897)、*The War of the Worlds* (1898)などで成功し、SFの大成者

として名を残す。

・おもな作品と映画は以下の通り。

『タイム・マシン』(1895)

バル監督『タイム・マシン』(1959)

ウエルズ、ヴァービンスキー監督『タイム・マシン』(2002)

『ドクター・モローの島』(1896)

テイラ監督『ドクター・モローの島』(1996)

フランケンハイマー監督『DNA／ドクター・モローの島』(1996)

『透明人間』(1897)

ホエール監督『透明人間』(1933)

ラモント監督『透明人間』(1951)

『宇宙戦争』(1898)

ハスキン監督『宇宙戦争』(1953)

スピルバーグ監督『宇宙戦争』(2005)

ラット監督『宇宙戦争』(2005)

４　オスカー・ワイルド　Oscar Fingal O’Flahertie Wills Wilde (1854-1900)

上田和夫編『イギリス文学辞典』(大修館書店、2004 年 1 月)、p.382.

詩人・小説家・劇作家。ダブリン生まれ。父親は高名な眼科・耳鼻科医、母親は‘Speranza’の筆名で活躍していた愛国主義者の著述家。ダブリンの Trinity College およびオックスフォードの Magdalen College で学ぶ。

オックスフォード在学中の 1878 年にすでにその‘Ravenna’によって Newdiate Prize を受ける。その頃から機知と才気で知られ、芸術と生活における唯美主義を主張していた。大学卒業後、ロンドンに移住し、派手な唯美主義者ぶり、とくに長髪とビロードの半ズボン姿が *Punch* 誌や Gilbert と Sullivan の喜劇 *Patience* (1881)などでからかわれる。処女詩集 *Poems* (1881)を出版後、1882 年に 10 ヶ月に及ぶアメリカ講演旅行に出かけて唯美主義的な芸術と生活について講演し人気を博す。

・おもなワイルド作品と映画

『幸福の王子』(1887)
『ドリアン・グレイの肖像』(1891)
ローイン監督『ドリアン・グレイの肖像』(1959)
ダラマーノ監督『ドリアン・グレイの肖像』(1971)
『サロメ』(1892)
デイター監督『情炎の女　サロメ』(1953)
ラッセル監督『ケン・ラッセルのサロメ』(1987)
『理想の夫』(1895)
パーカー監督『理想の結婚』(1999)
『真面目が肝心』(1896)
『獄中記』(1905)
ギルバート監督『オスカー・ワイルド』(1997)

・おもなワイルド・オペラ
『サロメ』(1905)
原作:『サロメ』
作曲:リヒャルト・シュトラウス

5　ラフカディオ・ハーン　Lafcadio Hearn (1850-1904)

上田和夫編『イギリス文学辞典』(研究社、2004 年 1 月)、p.158.

小泉八雲。アイルランド人軍医とギリシア女性を両親として Ionia 諸島の Levkás 島に生まれる。幼時、大伯母に引き取られて、イギリス、フランスで教育をうけ、1869 年アメリカに渡り、新聞記者になり、90(明治 23)年来日。英語教師として松江、熊本、神戸をへて、東京帝大で英文学を講じた。

古い日本の真実の美に惹かれ、‘exotic painter’として *Glimpses of Unfamiliar Japan* (1894)、*Kokoro* (1896)以下、数々の著作で日本を海外に紹介するとともに、西欧的感性の本質を、教壇を通して、日本の青年たちに伝えることに努めた。

6　映画化された英米文学

これまで触れてきたものと一部重複するが、2000 年以降映画化されて日本でも公開されたおもな英米文学作品の映画は

以下の通りである。

ウィリアム・シェイクスピア原作／アルメイダ監督『ハムレット』(2000)
J.K.ローリング原作／コロンバス監督『ハリー・ポッター賢者の石』(2001)
J.R.R.トールキン原作／ジャクソン監督『ロード・オブ・ザ・リング　旅の仲間』(2001)
J.K.ローリング原作／コロンバス監督『ハリー・ポッター秘密の部屋』(2002)
J.R.R.トールキン原作／ジャクソン監督『ロード・オブ・ザ・リング　二つの塔』(2002)
H.G.ウェルズ原作／サイモン・ウェルズ、ゴア・ヴァービンスキー監督『タイム・マシン』(2002)
R.L.スティーヴンソン原作／フィリップス監督『ジキル博士とハイド氏』(2002)
J.R.R.トールキン原作／ジャクソン監督『ロード・オブ・ザ・リング　王の帰還』(2003)
ダニエル・デフォー原作／シャベール監督『ロビンソン・クルーソー』(2003)
ジェイムズー・バリー原作／ホーガン監督『ピーター・パン』(2003)
アシモフ原作／アレックス・プロヤス監督『アイ、ロボット』(2004)
J.K.ローリング原作／キャアロン監督『ハリー・ポッターアズカバンの囚人』(2004)
フークワ監督『キング・アーサー』(2004)
ウィリアム・シェイクスピア原作／ライトフォード監督『ヴェニスの商人』(2004)
ダイアナ・ウィン・ジョーンズ原作／宮崎駿監督『ハウルの動く城』(2004)
H.G.ウェルズ原作／スピルバーグ監督『宇宙戦争』(2005)
J.K.ローリング原作／ニューウェル監督『ハリー・ポッター　炎のゴブレット』(2005)
チャールズ・デケンズ原作／ポランスキー監督『オリバー・ツイスト』(2005)

C.S.ルイス原作／アダムソン監督『ナルニア国物語　第1章　魔女とライオン』(2005)
ロアルド・ダール原作／バートン監督『チャーリーとチョコレート工場の秘密』(2005)
ジェイムズ・オースティン原作／ライト監督『プライドと偏見』(2005)
シュテフェン・ファンマイアー監督『エラゴン』(2006)
デヴィッド・イエーツ監督『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』(2007)
ブラッドリー・レイモンド監督『ティンカー・ベル』(2008)
C.S.ルイス原作／アダムソン監督『ナルニア国物語　第2章　カスピアン王子の角笛』(2008)

7　キャラクターとしてのイギリス物

1）フランケンシュタイン

メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』(1818)
ホエール監督『フランケンシュタイン』(1931)
ホエール監督『フランケンシュタインの花嫁』(1935)
ブラナー監督『フランケンシュタイン』(1994)

2）ドラキュラ

ブラム・ストーカー『ドラキュラ』(1898)
ブラウニング監督『魔人ドラキュラ』(1931)
フィッシャー監督『吸血鬼ドラキュラ』(1957)
コッポラ監督『ドラキュラ』(1992)
＊ドラキュラ退治に乗り出すヴァン・ヘルシンクが登場し、以後、魔物退治の代名詞として使われるようなる。ヴァン・ヘルシンクの話も独立して作られるようになる。

3）ピーター・パン、ウェンディ、フック

ジェームズ・バリー『ピーター・パン』(1904)
ブレノン監督『ピーター・パン』(1924)
ラスケ、ジェロニミ、ジャクソン監督『ピーター・パン』(1953)

スピルバーグ監督『フック』(1991)
ホーガン監督『ピーター・パン』(2003)
フォースター監督『ネバーランド』(2004)

４）ピーター・ラビット　Peter Rabbit
ベアトリクス・ポッター　Beatrix Helen Potter (1866-1943)
上田和夫編『イギリス文学辞典』(大修館書店、2004 年 1 月)、p.281
女性童話作家・挿絵画家。 Lancashire の裕福な家庭に育つ。教育は家庭教師のみ。避暑先の湖水地方 Lake District を愛し、動植物を写生。1893 年家庭教師の息子の見舞いに書いた絵入り手紙が *The Tale of Peter Rabbit* の原型で、1901 年、250 部を自費出版。以降 23 冊のシリーズは児童文学の古典となった。動物の生態に基づくユーモラスなストーリー、難関な語も取り入れと簡潔な文章、綿密な取材と博物学の感性に支えられた正確な絵が特徴。1905 年、湖水地方 Lake District の Windermere 湖の近くに Hill Top Farm を購入。13 年結婚、以後農業と牧羊に専念。数千エーカーの土地を National Trust に遺贈した。

５）アリス　Alice
ルイス・キャロル　Lewis Carroll (1832-1892)
上田和夫編『イギリス文学辞典』(大修館書店、2004 年 1 月)、p.56.
児童文学者・数学者。本名 Charles Lutwidge Dodgson。Cheshire の牧師の長男として生まれ、Rugby 校からオックスフォードの Christ Church に進み数学を専攻、1854 年卒業後、同学寮の数学の講師となる。聖職叙任。生来の内気と酷い吃音のために人前で話すのを苦手とした。Edmund Year の雑誌 Train などに投稿し‘Lewis Carroll’の筆名を用いる。女の子を可愛がり、大学の学生監 Liddle の娘 Alice とその姉妹の舟遊びをしたとき、思いつきで話したことをもとに *Alice’s Adventures in Wonderland* (1865) を出して大成功を博した。ヴィクトリア朝の倫理と大人の整合性から逸脱した物語は児童文学として画期的で、児童の精神傾向への新しい接近の道を開いた。続編 *Through*

the Looking-Glass and What Alice Found There (1871) とナンセンス詩 *The Hunting of the Snark* などがある。
ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』(1865)
ルイス・キャロル『鏡の国のアリス』(1871)

６）くまのプーさん　Winnie-the-Pooh
アラン・ミルン　Alan Alexaner Milne (1882-1956)
上田和夫編『イギリス文学辞典』(大修館書店、2004 年 1 月)、p.230.
小説家・随筆家・劇作家。ロンドン生まれ。ケンブリッジ大学に学び *Granta* 誌を編集。1906-14 年 *Punch* 誌の副編集長となり、随筆を連載。*Mr Pim Passes By* (1921)など軽妙なユーモア喜劇 20 作がウェスト･エンドで上演された。*The Red House Mystery* (1921)は推理小説の傑作。童話集 *When We Were Very Young* (1924)、*Now We Are Six* (1927)、息子とぬいぐるみが主人公の童話 *Winnie-the-Pooh* (1926)、続編 *The House at Pooh* (1928)は、Ernest H. Shepard 挿絵で児童文学の古典。*Pooh* はラテン語など諸国語版、Walt Disney のアニメ版、タオイズムやビジネス・マニュアルへの応用版にもなった。Milne 自身は童話作家とは見られたがらず、また実際の父子関係は冷たく、息子の ChristopherRobin は童話のモデルになったことが原因で、極度の人間嫌いになった。

７）機関車トーマス　Thomas the Tank Engine
フリー百科事典『ウィキペディア』(http://www.ja.wikipdeia.org)
きかんしゃトーマス (Thomas and Friends)は、イギリス制作のミニチュア・ワークを取り入れた幼児向けの人形劇テレビ番組。2002 年ごろまでは、Thomas the Tank Engine and Friends が正式なタイトルだった。日本語版は一貫して「きかんしゃトーマス」と称してきた。(中略)
イギリスで 1984 年にテレビシリーズとしてスタートした。日本では、1990 年から、フジテレビ系列の『ひらけ！ポンキッキ(→ポンキッキ―ズ→ポンキッキ 21→ポンキッキーズ→ポンキッキ)』およびフジテレビ 721『チルドレンタイ

ム』、BS フジ『トーマスくらぶ』で放送され、長く子どもたちの人気者となっている。原作は、ウィルバート・オードリー牧師による絵本シリーズ「汽車のえほん」から、プロデューサーのブリット・オールクロフトが、幼い頃慣れ親しんだ絵本の原作者オードリー牧師と、鉄道に関するドキュメンタリー番組の制作中に出会ったことがきっかけで、テレビシリーズ化を思い立った。映像化にあたり原作絵本より対象年齢が引き下げられ、原作の就学児童向けからテレビシリーズは幼児向けとなった。1 シリーズを 2 クール 26 話で制作。1 話あたりの放送時間は第 7 シリーズまでは本編正味 5 分、第 8 シリーズからは本編正味 7 分。シーズンの間にはブランクもあり、再放送でつないでいる。イギリスから始まり、世界各国で放送され好評を納め多くの賞を受けた。なお初期シリーズのオリジナル英語版では元ビートルズのリンゴ・スターがナレーションをつとめていた。（ちなみに英語版では、ナレーターの一人語りで物語が進行する）紆余曲折を経ながら 20 年を超える長寿シリーズに成長し、男児向けキャラクターの定番として大量の商品が流通している。ビデオ／DVD かされた番組自体をはじめ、絵本や玩具・日用品・衣料など、2005 年現在で日本国内のきかんしゃトーマスのキャラクター商品の売上額は年間 250 億円に上る。また、エルトン・ジョンが自らのレーベル「ロケット・レコード」のイメージ・キャラクターに一時トーマスを使用していたりするところからも、人気のほどが窺える。

８）パディントン・ベア　Paddington Bear
「マイケル・ボンド」
（http://www.ehon.info/whoswho/MichaelBond.html）
1926 年 1 月 13 日、ロンドンの西に 100 キロほど離れたニューベリーに生まれる。半年後父親の仕事でレディングの町へ。義務教育の終了後 14 歳で弁護士事務所に入り、後に BBC 放送へ入社。17 歳で空軍に志願。2 年後陸軍に移りエジプトへ配属。その頃から文章を書き始め、1947 年には再び BBC に戻りカメラマンとして仕事をしながら執筆を続け、1958 年に『クマのパディントン』を出版し人気を博す。

「パディントン・ベアのなぞ」
(http://www.2s.biglobe.ne.jp/~keri/paddingtonbear.htm)

英国のマイケル・ボンドの童話。赤い帽子、青いダッフルコートに赤い靴のくまのお話。ペルーから密航してイングランド、ロンドンにやってきた。パディントン駅の「落とし物預かり所」近くで、皮のスーツケースに座っていたところへブラウン夫妻がやってきた。運命の出会い、というわけだ。くまの首には、「このくまの面倒をみてあげて下さい。ありがとう。」と書かれた札が下がっていた。この単純な要求に、ブラウン夫妻はそのくまを自宅に連れてかえらずにはいられなかった。パディントン駅で見つけたからパディントンと呼ばれるようになった。

９）シャーロック・ホームズ
上田和夫編『イギリス文学辞典』(大修館書店、2004 年 1 月)、p.323.

A. Conan Doyle が創造した私立探偵。ロンドンの架空の場所 221B, Baker Street に住み、Dr Watson とともに難事件を次々と解決した。その水際立った推理とストーリー性は全世界に熱狂的ファンを生んだ。初事件は *A Study in Scarlet* (1887)、以後 60 以上の事件に関わるが、*The Adventures of Sherlock Holmes* (1891)、*The Case-book of Sherlock Homles* (1927)はその事件を収めた短編集である。*The Final Problem* (1893) で死亡するが、ファンからの激しい抗議で、生き返らせた「事件」はよく知られる。事件の怪奇と複雑さは世紀末のイギリス、ことにロンドンの混沌とした空気に合っていた。

10) サンダーバード　Thunderbird
「サンダーバード」
(http://www.tbjapan.com/intro/intro_navi.html)

「サンダーバード」の生みの親、総製作指揮のジェリー・アンダーソンは、1929 年 4 月 14 日、ロンドンのハムステッド生まれ。技術学校で石膏工芸を学んだが、石灰にアレ

ルギーを持っていたとわかり、映画セット用の模型を作る夢を断念したという。

スチール写真技師として、働き始めたジェリーはどうしても映画産業で働きたくなり、英国情報省に属するフィルム製作現場に見習として参加した。その後、独立系フィルムメーカーの「ゲーンズボロ・ピクチャーズ」に入社したが、1947年に英国空軍に徴兵され、航空管制の無線交換手を担当した。

2年後に兵役を終えたジェリーは、数社の映画製作会社を経て、劇場上映用のCMフィルムやドキュメンタリーを制作する「ポリテクニック・スタジオ」に入社する。そこで多くの仲間と出会い、1955年暮れに仲間5人と独立してCMフィルム製作会社「APフィルムズ」を設立した。

しかし、CMの仕事は来ず、瀬戸際となった半年後に舞い込んだ仕事は、絵本作家ロバータ・リー原作の「The Adventures of Twizzle」（日本未公開）という、安価な15分人形劇TVシリーズ26本の製作依頼だった。その後、彼女原作の「Torchy The Battery Boy」（日本未公開）15分 全26話の人形劇TVシリーズも製作している。そして、ロバータ・リーが紹介した作曲家、バリー･グレイ原案で、1960年グラナダTV放送「Four Feather Falls」（ウエスタンマリオネット　魔法の拳銃）を製作することとなった。このときの操り人形には、頭部中部に電磁石を内蔵し、台詞の録音テープに直動して、電気信号で唇を開閉させる「リップ・シンクロイド装置」を試験的に使用している。

その後、ジェリーはATV総帥のルー・グレード卿のバックアップを受け、スーパーマリオネーション第1作の「スーパーカー」、英国はカラーTV番組「スティングレイ」、初の1時間人形劇「サンダーバード」などの特撮人形劇で、ヒット作品を発表した。1965年「APフィルムズ」から「21世紀プロダクション」に改名したスタジオは「キャプテン・スカーレット」、「ジョー９０」、「ロンドン指令X」の後に、実写作品にも挑戦を始め、「UFO」の終了後、解散。

ジェリーは「グループ・スリー・プロダクション」を作り1972年「プロテクターー電光石火」、1975年「スペース：1999」を製作して、成功を収めた。

「テラホークス」、「ディック・スパナー」「スペース・プリシンクト」「ラベンダー・キャッスル」など子供番組を製作したジェリーは、現在新作を作る為に活動中である。

21世紀の世界は科学技術がめまぐるしく発展し、人類にとっては夢のような世界であった。しかし、その科学技術はひとたび事故を起こせば逆に大惨事となる危険性をはらんでいる。そのような時代背景の中、西暦 2065 年、アメリカの世界的な大富豪、ジェフ・トレーシーによって国際救助隊（INTERNATIONAL RESCUE ORGANIZATION）が設立される。ひとつの国や救助組織では対応できない大惨事から人々を救出するためである

国際救助隊は公的なものではなく、あくまでもジェフ・トレーシーとその家族らによって構成される私的な組織である。主たる活動は、その名の通り“人命救助”。

最新気鋭の科学技術によって開発されたスーパーメカ“サンダーバード”を駆使して、災害や事故、あるいは犯罪によって危機に直面した人々を救う。活動の拠点となる基地は、南太平洋上に浮かぶ絶海の孤島、トレーシー・アイランド。悪用を避けるため、その詳細は絶対の秘密とされている。ジェフの指揮のもと、ブルーの制服に身を包み、サンダーバード・メカに乗り込むのがジェフの５人の息子達、スコット、ジョン、バージル、ゴードン、アランだ。彼らの知恵と勇気に満ち溢れた活躍を描くのが、『サンダーバード』なのである。

１０　童話

1 イギリス児童文学の古典

カーペンター、プリチャード／神宮輝夫監訳『オックスフォード世界児童文学百科』（原書房、1999 年 6 月）、p.34.

いちはやく産業革命に成功し、世界を支配したイギリスが、最も繁栄したヴィクトリア時代と呼応するかのように、19 世紀後半から 1920 年代にかけて、イギリス児童文学は、まさにその黄金時代を謳歌した。義務教育法制定(1870)をはじめとする教育改革の成果により読み書きできる人口が増加し、本の大量生産につながる技術革新は、色彩的にも魅力的な書物を彼　らに提供した。ファンタジーを中心

に、異なるジャンルで優れた作品が多数出版された。

2「三匹の子豚」
フリー百科事典『ウィキペディア』(http://www.ja.wikipdeia.org)
三匹の子豚（さんびきのこぶた）は喋る動物たちが登場するおとぎ話である。この物語の出版は 18 世紀後半にさかのぼるが、物語そのものはもっと古くから存在していたと考えられる。この民間伝承として語り継がれてきた物語は、1933 年のウォルト・ディズニーによるアニメーション作品により有名になった。日本では 1960 年代に制作された着ぐるみ人形劇『ブーフーウー』で有名。

カーペンター、プリチャード／神宮輝夫監訳『オックスフォード世界児童文学百科』(原書房、1999 年 6 月)、pp.314-315
三びきのコブタ　Three Little Pip, The
1853 年に J・0・ハリウェルが採集した昔話で．ジェイコブズ゛の『イギリス昔話集』(1890) に収録されている。
３匹のブタが家を建てる。１匹はわらで，もう１匹はエニシダ（小枝）で，３匹目はレンガで建てた。オオカミがわらの家にやってきて，中に入れてくれと頼むが，ブタは「だめだよ、だめだよ、僕のあごひげにかけても」とこたえる。すると、オオカミはｒふーとふいて，ぷーとふいて、この家、ふきとばしてしまうぞ」といって、この家、ふきとばしてしまうぞ」といって，ふきとばし，ブタを食べてしまう。２つ目の家とその持ち日にも同じことがおこる。ところが，オオカミはレンガの家をふきとばすことができない、３番目のブタを捕らえようとしてオオカミはさまざまなことを試みるが，とうとう煙突をおりてゆくとまでいう。ブタは火をおこし．大鍋を煮たたせた。そしてオオカミは鍋に落ち、ブタはそれを料理し，食べてしまう。
　この話は、グリムの『オオカミと７匹の子ヤギ』(*The Wolf and the Seven Little Kids*)にいくぶん似ている。1813 年にロンドンの S・フッドによって出版された『よく知られたナニー・グースの話』(*The History of Celebrated Nanny Goose*)には、イギリスの類話として初めて文献に記

録されたものが収録されている。その話では、３匹のガチョウの子のうちで一番賢いものが、レンガの家を建ててキツネの裏をかく。同じ話が、『レナード王子とレディ・グーシアナの話』(*The History of the Prince Renardo And the Lady Goosiana.* ロンドン H・フォース, 1883)では、いっそう装飾的に再話されている。

この話を絵本Sこしたものが20世紀に入るとたくさん出てくるが、L・レズリー・ブルッダのもの（1905）もその１冊である。1933年には、この作品は、成功を博したディズニーのアニメ映画「シリーズ･シンフォニーシリーズの１作として制作された。主題歌（フランク・チャーチル作)「オオカミなんかこわくない」も評判をよんだ。映画ファンは、この映画に登場するオオカミを大恐慌の象徴としてとれえた。さらにその主題歌はアメリカの国民を勇気づけるものとなった。

3「ジャックと豆の木」(「ジャックと豆のつる」)

カーペンター、プリチャード／神宮輝夫監訳『オックスフォード世界児童　文学百科』(原書房、1999 年 6 月)、pp.334-335.

ジャックと豆のつる　Jack and the Beanstalk

イギリスでは、おそらくとも 18 世紀の前半には知られていたと思われる昔話。1734 年には、『暖炉を囲んで――またはクリスマスのおたのしみ』(*Round about our Coal-Fire: or Christmas Entertainments*)が出版された。これは、匿名氏によって書かれた風刺的な本で、昔話や迷信を信じることがいかに無益かということをはっきり書いている。この本には「ジャック・スプリングと魔法の豆の物語でみられる魔法」と題された章がある。･･･中略･･･

タバートによって 1804 年から出版されはじめた『みんな知っているお話』シリーズに、『ジャックと豆のつるの物語。いままで出版されたことのない原稿からのもの』(*The History of Jack and the Bean-stalk, Printed from The Original Manuscript, Never Before Published*)が収められている。現存する一番古いものは、1807 年版である。重要な再話の手本となったタバート版は、時代が「アルフ

レッドの御代」に設定されている。・・・中略・・・
　天までとどく豆のつるは、旧約聖書〔創世記 28・12〕のヤコブのはしごや、『新エッダ』の、枝を天までのばし、根を地獄にまではわあせている世界樹イグドラシルを連想させる。グリム兄弟によって収集された話「天国のからざお」は、田舎者が植えた種が、ぐんぐん成長して大きな木になり、空にとどくというところがイギリスの話と似ている。

4「幸福の王子」

カーペンター、プリチャード／神宮輝夫監訳『オックスフォード世界児童文学百科』(原書房、1999 年 6 月)、p.264.
幸福な王子　Happy Prince and other tales, The
オスカー・ワイルド (1854-1900)作の物語集。1888 年にウォルター・クレインとジェイコム・フッドのさし絵つきで出版された。物語集にはハンス・アンデルセンの影響がはっきりと現れており、どの作品からも一様に悲観的な人生観が伝わってくる。物語集の表題作は、ある王子の銅像が台座の上から喜びの種を探そうとして、人びとの貧しさと惨めさを見るという話である。暖かい土地に渡っていく仲間に加わりそびれた 1 羽のツバメを協力者として、王子は不幸な人びとに贈り物をする。だが、そのため王子もツバメも命を落とすことになる。

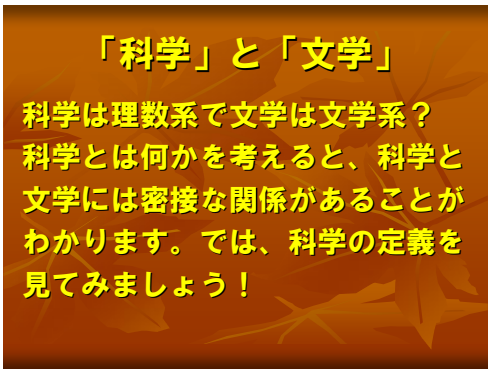
5『フランダースの犬』 *A Dog of Flanders* (1872)

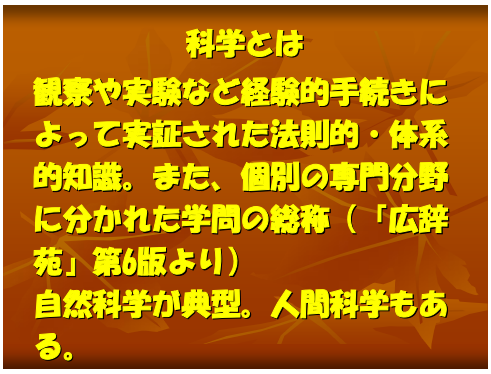
フリー百科事典『ウィキペディア』(http://www.ja.wikipdeia.org)
フランダースの犬（ふらんだーすのいぬ、原題:A Dog of Flanders)は、イギリスのウィーダ(Ouida)の書いた童話。物語の舞台はベルギー北部のフランダース（フランドル）地方。1872 年の作品。孤児ネロと愛犬パトラッシュの物語。TV のアニメ作品になって、日本では絶大な人気を得ている。活字版は、一時、TV アニメ絵本しかなかった時期もあったが、2003 年に岩波書店から並装の廉価版が発売された。同じ著者による別の短編も収録されている。この作品はイギリスの作家の手によることもあり、ベルギーではほとんど

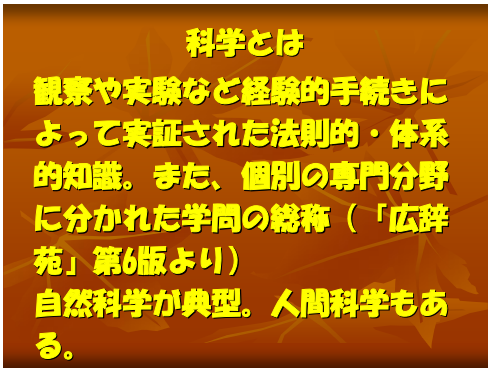
無名の作品で、現地には著者や登場人物の銅像などの類はなかった。2003年5月、アントワープの聖母大聖堂教会の前にネロとパトラッシュの銅像が建てられた。これは作品が再評価されたからではなく、日本からの観光客が『フランダースの犬』にまつわる場所を捜し求めるためである。ルーベンスの絵を見てネロを思い出し、涙する日本人もいるという。アメリカで出版されている『フランダースの犬』では、内容が救いがなさ過ぎるとして改変が加えられている。この改変されたストーリーでは、ネロとパトラッシュは聖堂で死亡せず、ネロの父親も名乗り出てハッピーエンドをむかえる。

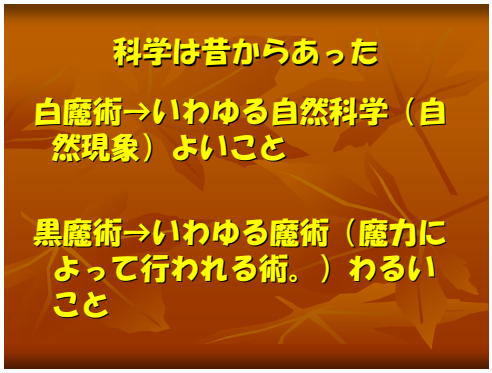
２）科学とファンタジー

これまでファンタジーといった考え方をしていたもの、あるいはSF(science fiction)と考えていたものが、科学の発達により、現実になっている傾向がある。こうしたことを考えると、科学と文学はともに想像力（イマジネーション）から始まることになる。ここでは特に、ロボットを意識したものをとりあげる。実際の講座ではさらに詳しい内容をパワーポイントにて紹介したい。









科学の要素？

自然科学にとって、「地」「水」「火」「風」「雷」、さらには「大地」「海」「空」（「天空」）は基本的な要素。そして、人間。

「火」は人類の宝

神々の姿に似せて創造された人類に、「火」を伝えたとされるのがプロメテウス。プロメテウスはゼウスの怒りを買う。「ギリシャ神話」より

英文学史を辿りながら「科学」と「文学」を考えてみよう

ドラゴンは伝説は国を越え、文化を越え、存在する。英文学では「ベオウルフ」に登場するグレンデルがそれにあたる。

完全ではないストーリーを埋め、映画化された。グレンデルは科学の力では説明できない。

キリスト教伝来以前　ケルト文化

当初の宗教は自然崇拝の多神教であり、ドルイドと呼ばれる神官がそれを司っていた

ケルトでは、動物はインスピレーションや魔力を与える存在として、人間と非常に密なる関係にあり ます。

日本の神道、神話に共通点が、、、

妖精は想像力の産物？

英文学の根底にはケルト文化の影響を強くみることができる。

妖精（フェアリー）は科学では説明ができない存在。

プトレマイオスの天動説

1530年　コペルニクス、地動説を唱える

世界は旧秩序と新秩序が混在

地球は丸い、地球が太陽の周りを回っている。

天動説・地動説についていえば、天動説を主張したのはエジプトのプトレマイオスやギリシャのアリストテレスであり、地動説を発見したコペルニクス、ガリレイ、ケプラーは、いずれも熱心なクリスチャンでした。

新しい時代の息吹が、、、

あのシェイクスピア（１５６４－１６１６）の時代は新しいものと古いものが混在する時代。天文学が進むものの、占星術や魔術もまだまだ一般民衆には根深いものが、、、

科学と文学

１９世紀（１８００年代）の科学は文学の中にどのような形で入りこんできたのか？文学史と科学の関係を見てみよう。

どんな作品があるか見てみよう！

怪奇小説
「フランケンシュタイン」、「ドラキュラ」はイギリスが生んだ文学です。ここには、科学VS宗教の問題が隠されています。

「フランケンシュタイン（1818）

メアリ・シェリーの怪奇小説。
スイスの科学者フランケンシュタインは、死体の断片をつなぎ合わせて人造人間を作る。
生命とは何か？生命科学とは？

スティーヴンソン「ジキル博士とハイド氏」（1886）

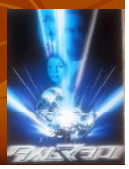
人間の心を科学の力で解き明かそうとした時代の作品です。フロイトの「夢判断」(1900)によって「無意識」という領域が証明された。21世紀にこの考え方は通用するか？

Science Fictionの行方

SF小説
「タイム・マシン」「宇宙大戦争」「透明人間」「ドクター・モロー博士の島」はイギリスのH.G.ウェルズが書いた作品です。

「タイム・マシン」(1895)

アインシュタインの「特殊相対理論」が発表されたのは１９０５年。文学は科学を先行する？ＳＦ小説の元祖。
文学の新しい姿？



「ドクター・モローの島」（1896）

DNAをテーマにした作品。動物が人間へ。ダーウィンの『種の起源』、いわゆる進化論が発表されたのは、1859年のこと。メンデル法則は1865年のこと。

ブラム・ストカー「ドラキュラ」（1897）

科学の時代に何故。
宗教ＶＳ科学？
木の杭、聖水は伝統的な方法
銀の弾丸は科学の力

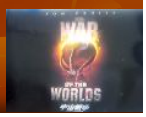
「宇宙大戦争」(1898)

未知なる宇宙へのあこがれ。宇宙人の存在は？

古きよき伝統　→　妖精

新しい科学の時代　→　宇宙人

未知なる存在VS人間



バリー「ピーター・パン」（1904）

妖精（ピーター・パン、ティンカー・ベル）

科学の時代の人間の想像力のあり方？科学は万能のなのか？

ミニ情報

１９２０年にカレル・チャペックが「Ｒ．Ｕ．Ｒ」（エル・ウー・エル）を発表。「ロボット」という言葉が使用される。この時は化学物質を加工して様々なパーツを作り、それを組み合わせた一種の人造人間。

カレル・チャペックはチェコソロヴァキア人。

ミニ情報

アイザック・アシモフ（米）『われはロボット』（１９５０）で「ロボット工学三原則」が示される。

「ロボット工学の三原則」

第一条　ロボットは人間に危害を加えてはならない。また何も手を下さずに人間が危害を受けるのを黙視していてはならない。

第二条　ロボットは人間の命令に従わなくてはならない。ただし第一条に反する命令はこの限りではない。

第三条　ロボットは自らの存在を護らなくてはならない。ただしそれは第一条，第二条に違反しない場合に限る。

人類初の月着陸

１９６９年７月２０日、アポロ１１号が人類初の月着陸。人類は宇宙時代に突入する。かつては、ＳＦであった宇宙ものは現実のものに。

パソコンの時代が到来

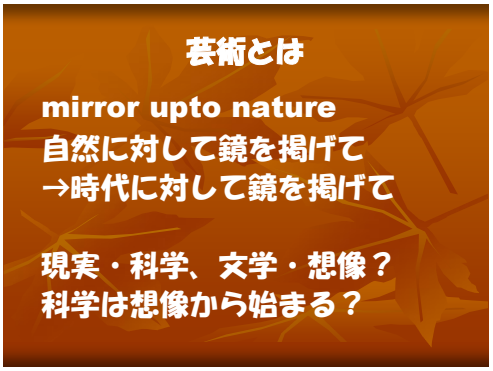
１９７７年にアップル・コンピュータ社設立

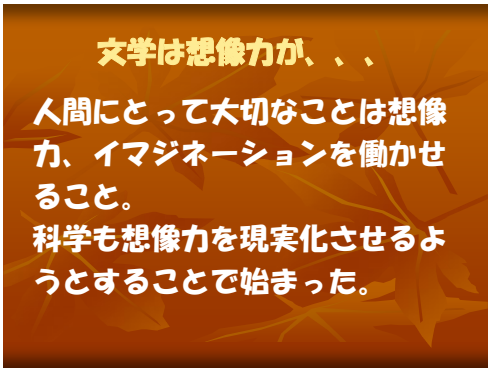
１９８１年にマイクロ・ソフト社設立

インターネットの時代が到来

１９９１年　ヨーロッパ原子核共同研究所（ＣＥＲＮ）がWorld Wide Webを開発。

１９９２年　日本で商用ネットワークサービスが開始される。





（パワーポイント抜粋資料）

抜粋関連年表

1492 年　コロンブス、アメリカ新大陸発見。
1818年　シェリー『フランケンシュタイン』
1886 年　スチーブンソン『ジキル博士とハイド氏』
1895 年　ウェルズ『タイム・マシン』
1896年　ウェルズ『ドクター・モローの島』
1897年　ストーカー『ドラキュラ』
1898 年　ウェルズ『宇宙大戦争』
1900 年　フロイト『夢判断』
1905 年　アインシュタイン『特殊相対理論』
1920年　カレルチャペック『R.U.R』
　＊「ロボット」という言葉が始めて使用される。
1950 年　アシモフ『アイ、ロボット』
1969 年　アポロ 11 号、人類初の月着陸。
1977 年　アップル・コンピュータ社設立

ま と め と し て

「子どものための外国文学」と題してこれまで述べてきたが、実は「子どものための外国文学」という言い方自体が古いのかもしれない。社会福祉も最近では、ヒューマン・ケアという言い方が少しずつであるが浸透してきている。これまでの社会福祉は上から下へといった弱者救済的なイメージが強かった。しかし、実施の福祉の現場、あるいは介護の現場では、介護する方もされる方もお互いへの気遣いや精神的な負担がかなり大きくなっている。こういう意味から、ケアすべきはなにも「される側」だけではなく、「する側」にも必要なことであるからだ。その意味で、この両者をケアすることが、ヒューマン・ケアということになろう。つまり、「子どものための外国文学」というのも、一見「子どものため」という名目であっても、その内容はじつはおとなが読んだ方がいいものもあれば、大人向きに書かれたものであっても、「子どもが読んだ方がいい」もある。もともと、文学であることに変わりはなく、「児童文学」といったような分類は後世の人たちがしてきたことであり、ルソーではないが、自然な環境の中で、植物のように必要な栄養を得ることが「子ども」には必要なのではないだろうか。その意味では「子どものための外国文学」があるのではなく、どんな文学も子どもでわかるようにおとなが噛み砕いて子どもに与えられるかどうかが重要なように思えるのだ。重要なことは「一緒に読む」「読んで聞かせる」「一緒に観る」といった時間を共有することだろう。しかし、こうした時間を共有するには、楽しい時間が過ごせる、あるいは心が浄化される（癒し効果のあるもの）が何より望ましいことは言うまでもない。外国文学のよいところは日本とは全く異なった非日常の世界がそこに広がることだ。その中で繰り広げられるファンタジーは、想像力を擽り、また、SF は知的な好奇心をわき起こすことだろう。その宝庫がまさに英米文学に代表されるのだ。

注

(1) 今岡健一郎他編『社会福祉発達史』(ミネルヴァ書房、1973年4月)、pp.2-3.
(2) 田中義廉編『小学讀本』文部省、1873年3月。(古田東朔編『小学讀本便覧』第一巻、武蔵野書院、1978年12月、p.110.)
(3) 桑原三郎「解説」(『日本児童文学名作集(上)』),pp.276-277.
(4) 上笙一郎『児童文学概論』東京堂出版、1970年4月、p.179.
(5) 瀬沼茂樹「児童文学と近代文学」(瀬沼茂樹他編『日本児童文学名著事典』ほるぷ出版、1983年11月)、p.2.
(6) Ibid., pp.2-3
(7) 滑川道夫『日本児童文学の軌跡』(理論社、1988年9月)、p.340.
(8) 林浩康「子ども観の歴史的変遷」(『北星論集』第34号、北星園大学、1997年3月)、p.63.
(9) Ibid., p.341.
(10) 桑原三郎「解説」、p.282.
(11) 瀬田卓二他編『英米児童文学史』(研究社、1971年8月)、p.3.
(12) Ibid., p.5
(13)『英米児童文学史』、p.7.
(14) Ibid., p.16.
(15) 蘆谷重常『世界童話研究』(早稲田大学出版部、1924年11月)、p.5.
(16) Ibid., pp.381-382.
(17) Ibid., pp.382-383.
(18) Ibid., pp.389-390.
(19) 石崎等「ワイルドと日本児童文学」(山田勝編『オスカー・ワイルド事典』北星堂書店、1997年10月)、p.508.
(20) Ibid., p.509.

資料

大関五郎編『現代童謡辞典』紅玉堂書店、1928 年 3 月
内藤午朗『童謡新辞典』大京堂書店、1947 年 3 月
坪田譲治『児童文学入門』朝日新聞社、1949 年 1 月
滑川道夫「児童文学史」(『文学』第 19 巻第 8 号、岩波書店、1951 年 8 月)
長谷川誠一編『日本児童文学事典』河出書房、1954 年 3 月
和久利栄一他編『世界児童文学事典』共同出版社、1955 年 3 月
福田清人他編『児童文学概論』牧書店、1963 年 1 月
鳥越信『日本児童文学案内』理想社、1963 年 8 月
横谷輝『児童文学の思想と方法』啓隆閣、1969 年 6 月
瀬田貞二他『英米児童文学史』研究社、1971 年 8 月
今岡健一郎他編『社会福祉発達史』ミネルヴァ書房、1973 年 4 月
桑野三郎『「赤い鳥」の時代』慶応通信、1975 年 10 月
高杉一郎編『英米児童文学』中教出版、1976 年 5 月
定松正・谷本誠剛『英米児童文学読本』桐原書店、1982 年 4 月
神宮輝夫『世界児童文学案内』理論社、1984 年 4 月(初版 1964 年)
日本児童文学会編『児童文学事典』東京書籍、1988 年 4 月
滑川道夫『日本児童文学の軌跡』理論社、1988 年 9 月
波多野完治「文学における児童観」(『波多野完治全集』第 7 巻、小学館、1991 年 2 月)
北本正章『子ども観の社会史』新曜社、1993 年 10 月
梅沢信生『子ども観の歴史』新読書社、1993 年 11 月
鳥越信編『近代日本児童文学史研究』おうふう、1994 年 11 月
松島正一「児童文学と教育――イギリス・ロマン主義時代における」(『イギリス・ロマン派研究』第 19・20 号合併号、イギリス・ロマン派学会、1996 年 3 月)
日本児童文学学会編『児童文学の思想史・社会史』東京書籍、1997 年 4 月
河原和枝『子ども観の近代』中央公論社、1998 年 2 月

宮脇源次他『児童福祉入門』(第4版改訂)ミネルヴァ書房、1998年11月
鳥越信「日本近代児童文学史の起点」(『日本児童文学』第44巻第6号、日本児童文学者協会、1998年12月)
沖野岩三郎『明治キリスト教児童文学史』久山社、1995年6月
本多英明他編『たのしく読める英米児童文学』ミネルヴァ書房、2000年3月
加藤理『駄菓子屋・読み物と子どもの近代』青弓社、2000年5月
定松正・本多英明『英米児童文学辞典』研究社、2001年4月
鳥越信編『はじめて学ぶ日本児童文学史』ミネルヴァ書房、2001年4月
安藤聡『ファンタジーと歴史的危機』彩流社、2003年1月
定松正編『イギリス・アメリカ児童文学ガイド』荒地出版社、2003年4月
定松正『イギリス児童文学紀行』玉川大学出版部、2004年4月
桂宥子他編『英米児童文学の黄金時代』ミネルヴァ書房、2005年4月
川戸道昭編『児童文学翻訳作品総覧』(全8冊)大空社、2005年6月～2006年3月
2005国立国会図書館国際子ども図書館編『日本児童文学の流れ』(平成17年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録)国立国会図書館国際子ども図書館、2006年10月

お　わ　り　に

「子どものための外国文学」というテーマはこれまで私自身があまり取り扱ってこなかったテーマである。英米文学でも現在も人気のある児童文学がたくさんあるが、今回は「子育て支援学科」という大きな枠組みの中で私自身も「こども観」と「児童文学」をどう考えていくかということをテーマに今回の講座を担当した。

なお、佐々木の経歴等は以下の通りであるが、下記以外の詳細な内容については本学ホームページ「武蔵野学院大学・武蔵野短期大学」(http://www.musashino.ac.jp)、あるいは個人ホームページ「佐々木隆研究室」(http://www.ssk.econfn.com)までアクセス願います。また、本講座の基となった内容については個人ブログ「佐々木隆研究室パート２」(http://geocities.yahoo.co.jp/gl/ssk2000takashi)に５月より連載したものである。

佐々木　隆（ささき　たかし）

経歴

・武蔵野短期大学国際教養学科教授を経て、現在、武蔵野学院大学大学院国際コミュニケーション研究科教授、武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部教授。武蔵野学院大学・武蔵野短期大学教務部長。博士（英文学）。
・平成２年に文部省大学設置審議会教員組織資格審査を経て武蔵野短期大学国際教養学科　専任講師
・平成 15 年に文部科学省大学設置・学校法人審議会教員組織資格審査を経て、武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科　教授
・平成 18 年に文部科学省大学設置・学校法人審議会教員組織資格審査を経て、武蔵野学院大学大学院国際コミュニケーション研究科国際コミュニケーション専攻（修士課程）教授

著　者　佐々木　隆
発行日　２００９年１２月１０日
発行所　武蔵野学院大学　佐々木隆研究室
〒３５０－１３２８
埼玉県狭山市広瀬台３－２６－１
http://www.ssk.econfn.com